

D-9 台湾および日本における肥満児の比較  
香蘭 短大 金子 小十枝

目的 第二次大戦後、世界的に肥満児が問題になり、これら肥満児は今後とも増加する傾向にあり、それに対して何らかの対策が講じられねばならぬが、そのためにはまず肥満児の実態を把握する事が先決と思ひ、日本(福岡県)学童について調査を進めていた所、幸にも台湾の学童についても調査を行なう事が出来、両者を比較検討することが出来た。

方法 台湾、日本ともに任意に都市と農村を選び、それぞれから任意に小学校を1つずつ選び、男女とも全学年について身長、体重、胸圍を測定してベルベック指数を算出するとともに Keys's skinfold caliper を使って肩甲骨下部皮下脂肪厚を測定し、ベルベック指数、皮下脂肪厚ともに95%ile以上を示す者を肥満児とした。

結果 調査人員は第1表、判定基準は第2表、肥満児数は第3表の通りである。

第1表

国名	性別	学年						
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全学年
台湾	男子	364	356	392	305	351	331	2099
	女子	345	326	337	324	326	364	2022
日本	男子	299	436	366	323	347	215	2186
	女子	394	342	367	328	339	291	2061

人数(名)

第2表

調査種別	性別	学年					
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生
ベルベック指数 (%)	男子	71.2	71.8	72.6	75.8	76.4	77.0
	女子	69.9	71.0	71.7	74.5	77.0	78.4
皮下脂肪厚 (mm)	男子	6.5	6.6	7.0	8.0	8.0	9.0
	女子	7.5	8.5	9.2	10.0	11.0	12.0

第3表

国名	性別	学年						
		1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	全学年
台湾	男子	0.27	1.69	1.28	2.62	0.58	2.42	1.43
	女子	0.58	0.61	2.08	0.93	1.84	1.65	1.29
日本	男子	2.51	2.75	3.83	2.77	3.77	3.17	3.11
	女子	2.54	4.09	3.00	5.78	2.95	5.50	3.88

率(%)